

特別支援教室だより

令和7年 7月 吉日
巡回拠点大杉東小学校
特別支援教室通信

今年度の「特別支援教室だより」では、一昨年お伝えした「児童のいろいろな困り」に対して、新たな視点での支援方法・手立てなど、巡回指導教員が考えた内容を掲載いたします。

【 今回のテーマ 】



「書くこと」が苦手な子



【 こんなことが考えられます 】

学校では、ノートに自分の考えを書いたり、テストに記入したりと基本的に書いて学習することが多いです。しかし、子供たちの中には、書くことに苦手意識があるため、度々手が止まる、マスから文字がはみ出してしまう、何度書いても覚えられないといった困難を抱えるお子さんがいます。その背景には、字を書くなどの指先を使った細かな作業、または目などの感覚器官から入る情報と指先の細かな作業との結びつきの困難さが影響していることがあります。

【 支援できることはなんでしょう 】



書いて覚えたり、理解したりすることが苦手・・・

【ポイント】その子の得意な力について知り、その力を活かした支援をしましょう！

・聞いて理解することや覚えることが得意

→読んで聞かせることで、「書く」という負担を軽減し、その分、内容を理解することに力を使うことができます。語彙を増やすための読書にも読み聞かせは有効です。

・見て理解することや覚えることが得意

→絵や写真、身振りを使うことで言葉をイメージできる経験を積んだり、物事の理解を促したりすることができます。前号でもお伝えしましたが、指示や話の内容を図や表にするとといった視覚的な提示があるとより効果的です。

書くことが嫌いにならないための工夫も大切です。例えば・・・

- ・字をきれいに書くことも大事ですが、「すすんでノートを開けたね」といったお子さんの頑張りを認めてあげる声掛けがあると意欲につながります。
- ・書く時間を十分にとったり、量を調整したりすることで、気持ちを落ち着けて取り組むことにつながります。
- ・滑りづらいコンパスや、数字や目盛りが見やすい定規、鉛筆の動きを意識しやすくなる凹凸した下敷き等、使いやすい工夫のある道具を使うことで書きやすさを感じるお子さんもいます。

本校には5名の巡回指導教員がいます。「特別支援教室」について、ご質問がございましたらご連絡ください。

また、本校のホームページに「特別支援教室だより」を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

ホームページのQRコードはこちら

